

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（8月定例会）会議録
開催日時	令和3年8月27日（金）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	田無第二庁舎2階 会議室 ※高橋議長を除く委員はリモートでの参加
出席者	委員：高橋議長、河野副議長、伊尻委員、勝野委員、川原委員、 黒羽委員、小松委員、坂内委員、攝賀委員、長谷川委員、松本委員 事務局：和田社会教育課長、江藤課長補佐兼社会教育係長、野田主事
議題	議 事 （1）活動スケジュール（予定）について （2）今後の活動について （3）その他
配付資料	資料1 社会教育委員の会議（7月定例会）会議録（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録

会議内容

●令和3年7月の定例会議の会議録（案）について、承認する。

議事（1）活動スケジュール（予定）について

○議長：まずは事務局より説明をお願いしたい。

○事務局：下記のとおり説明

- ・活動スケジュールについて「西東京市社会教育委員の活動スケジュール（案）」（参考配布）を用いて説明
- ・7月定例会の際に承認いただいたとおり、定例会は原則として月1回、第4金曜日に実施する。
- ・定例会で審議していただいた内容を令和4年3月末までに提言として提出していただきたい。
- ・定例会で審議するテーマに沿った研修や調査は、調整先の都合も踏まえ、定例会とは別の日程で行う可能性もある。
- ・その他の審議事項として「放課後子供教室事業の基本方針」について、ご意見を聴取したい。

議事（2）活動内容について

○議長：まずは事務局より説明をお願いしたい。

○事務局：定例会の主な活動としては、社会教育に関わる提言書を作成していただき教育委員会へご提出いただくことになる。まずは委員の皆さまから提言を提出していきたいテーマや題材等のご提案をいただきたい。

○議長：では、この2年間で「提言」として市へ提案していきたいテーマを、各委員より発表していただきたい。複数案ご提案いただいても構わない。

○委員：前期の会議で提言のテーマとはならなかったが、意見として挙げたテーマを参考までに紹介してほしい。

- 事務局：生涯学習の推進策や放課後子供教室、不登校児童の居場所について詳しく論じたかったという意見があった。
- 議長：質問や意見はあるか。
- 委員：前期に挙げたテーマを紹介していただいたが、地域学校協働活動をもう少し掘り下げてみるのも一つの案ではないだろうか。モデル校となる先生方やコーディネーターの方も今期の委員の中にいらっしゃるの、他にはない充実した形で当市における地域学校協働活動を深められるのではないかと考える。具体的には、地域学校協働活動を持続可能な形で運用していくにはどのようにすればよいのか、コーディネーターの支援や職務に関することなどがある。
- 委員：モデル校の検証結果をどのように反映させていくかの仕組みづくりも必要である。社会教育委員の会議において一つ提言を提出することは一つの役割であるが、提言と同時に地域学校協働活動の深掘りを日程を考えながら取り組んでいくのはどうだろうか。
- 委員：まず両方取り組み、時間をかけながら一つの新しい提言のテーマを見つけていく方法や定例会で地域学校協働活動の実施状況を共有していただき検証を行いつつ、それとは別に提言は提言で時間をかけて作っていく方法もあると考える。
- 委員：地域学校協働活動を進めながら、恐らく様々なものが見えてくると考える。そのため、適宜地域学校協働活動の状況を共有し検証していくことは大切なことである。現在、地域学校協働活動を通して感じていることは、持続させていくことの大切さである。持続可能な地域社会の形成に向けた社会教育の在り方、人と人とのつながりが弱くなり、地域の繋がりがより希薄化しているの、地域学校協働活動を進めるにあたり、地域社会とのつながりについても考えていきたい。
- 委員：つながり作りや地域づくりは社会教育の果たす役割である。このようなつながりは、希薄化していたところをコロナ禍でさらに希薄化している現状がある。地域学校協働活動で地域が学校を支えていく以上、地域づくりが大事になるが、その地域づくりや人づくりをどのように進めていくかについても議論をしていきたい。
- 委員：地域学校協働活動で気になるところは、モデル校となっていない学校での地域学校協働活動の認識が広まっていないように感じる点である。また、今期の活動では地域学校協働活動の他にも不登校の児童・生徒の居場所づくりや18歳以上の人が利用するスポーツ施設について考えていける活動にしていきたい。
- 議長：質問や意見はあるか。また地域学校協働活動とは違うテーマについての意見でも構わない。
- 委員：人づくりや地域づくりについて話が挙げたが、若者が大人になるための地域のサポートについて関心がある。民法改正で来年の4月に成人が18歳になり、学校を通っている間に成人を迎える人もいるが、成人になるということは義務や権利など学校の教育現場で学ぶ以外に知らないといけなことが多くある。若者が大人になるために、学校では教わらないことを地域がどう協力して支えていけるかについて考えていきたい。
- 委員：地域の人材をどのように学校教育に繋げていくかについて関心がある。公民館の運営委員会で出前講座案が各学校に配付され、各学校からアンケート形式で返信があり、どのようにして人材を募ったのか、学校からの返信がどの程度あって、どの程度実施できたのか、コーデ

ィネーターがどのように動いたのかを具体的に調査をし、今後の課題としてどのようなことが考えられるのかを提言のテーマとして考えていきたい。

- 委員：このことについては地域資源の把握が必要であると考え。人や公共施設でも、市にあふれている資源を活かすためにきちんと把握し、「誰に聞けば」「どこに行けば」がすぐにわかるようになると地域学校協働活動においてもスムーズに進められ、活かしていけると考える。
- 委員：大人と子どもの繋がり、昔ながらの人とのつながり作りに関心があり、どのようにしたら人とのつながり作りを深められるのかを考えていきたい。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響を受け、直接の関わり合いが難しいので、人とのつながり作りにはITを有効活用できるかについても考えていきたい。
- 委員：小中学校にタブレットが配布され、自分たちは学生時代にタブレット端末の使用を経験していないにもかかわらず、保護者は子どもに指導をしていく立場であることが、親としては難しく感じる。オンラインの社会に生きる子どもたちを、大人がどう支えていくかについて考えていきたい。
- 委員：子どもたちは家庭と学校だけの往復だけではなく、地域の人たちとの交流も大事である。学校は地域と共に一緒に歩いていくという姿や地域と共にある学校として位置づけていくことが大切である。地域学校協働活動については地域の中心にある学校という大きな視点を大事にしながら議論をしていきたい。
- 議長：地域学校協働活動のモデル校の視察や報告等を踏まえ、分析をし追跡することも大切である。また、今回の会議では地域学校協働活動以外のテーマについても非常に興味深いテーマが挙げられた。提言と地域学校協働活動の検証を同時にという意見もあったが、そのことについても1つの案として考えていきたい。
今回挙げたテーマを事務局の方で精査をしていただき、次回の会議でより深めていきたい。

議事（３）その他

※令和３年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第４ブロック研修会の開催について

- ・ ９月９日までに出欠の連絡を事務局までする。